

# 出水に備え『斐伊川水防演習』を実施します。

## 記者発表資料

第17回斐伊川水防演習を簸川郡斐川町出西の斐伊川右岸河川敷を会場として、別紙のとおり開催しますのでお知らせします。

近年、気候変動の影響などもあって記録的集中豪雨が多発し大規模な洪水災害が全国各地で起きています。ここ斐伊川流域でも平成18年の7月豪雨では、県都松江市が浸水し、流域の各地で甚大な被害が発生したことは記憶に新しいところです。

国土交通省、島根県及び斐伊川沿川の出雲市、雲南市、斐川町は、こうした出水の際に迅速かつ的確な水防活動を行ない、災害の発生を未然に防止し、又は被害を最小限にくい止めることができるよう備えるため、水防技術の修練と志気高揚を図ることを目的に『斐伊川水防演習』を毎年開催しています。

この度の演習では、水防団員の水防技術向上を図るため水防工法講習会を開催するほか、斐伊川の水防活動において必要となる代表的な水防工法や地元斐伊川オリジナルの「出雲結い工」などを実施します。また、被災現場で活躍する「排水ポンプ車」「照明車」の設営訓練も実施します。

会場にはこの他、一般見学者の皆様にも参加いただけるコーナーも設けておりますので、是非ご来場ください。

平成23年 5月27日

国土交通省 出雲河川事務所  
島根県 雲南県土整備事務所  
島根県 出雲県土整備事務所  
出 雲 市  
雲 南 市  
斐 川 町

発表記者クラブ名

県政記者会・出雲市政記者クラブ

問 合 せ 先

国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所  
副所長(技術) 坂本 泰 正  
建設専門官 錦 織 務  
Tel 0853-21-1850

(別紙)

1. 名称 第17回 斐伊川水防演習
2. 日時 平成23年6月4日(土) 午前9時00分から12時00分まで
3. 場所 簸川郡斐川町出西地先 斐伊川右岸高水敷
4. 主催 国土交通省出雲河川事務所、島根県雲南県土整備事務所  
島根県出雲県土整備事務所、出雲市、雲南市、斐川町
5. 演習内容
  - (1) 開会式 9時00分
    - ・挨拶(国土交通省出雲河川事務所長、斐川町長)
  - (2) 演習開始
    - ・水防工法講習会 9時20分  
(改良積み土のう工) 斐川町水防班、出雲市平田方面水防班、出雲市湖陵方面隊水防班  
出雲大社方面隊水防班、出雲市平田方面水防班、雲南市大東方面  
隊水防班、雲南市吉田方面隊水防班、雲南市掛合方面隊水防班
    - ・演習前半 9時45分
      - シート張工 出雲市平田方面隊水防班、雲南市掛合方面隊水防班
      - 木流し工・竹流し工 出雲市湖陵方面隊水防班、雲南市大東方面隊水防班
      - 積み土のう工 雲南県土整備事務所水防班
      - 改良積み土のう 国土交通省出雲河川事務所水防班、出雲県土整備事  
務所水防班
      - 出雲結い工 斐川町水防班、斐伊川水系災害対策協力会水防班
      - 洗掘防止応急対策工 斐伊川水系災害対策協力会水防班
      - 照明車 国土交通省出雲河川事務所水防班
    - ・演習後半 10時30分
      - 月の輪工 出雲市平田方面隊水防班、雲南市吉田方面隊水防班
      - 釜段工 出雲市大社方面隊水防班
      - 排水ポンプ車 国土交通省出雲河川事務所水防班  
雲南県土整備事務所水防班
      - 救急・救命講習会 出雲市消防本部
    - ・工法視察 11時15分
  - (3) 閉会式 11時50分
    - ・挨拶(島根県河川課長)
  - (4) 閉会式終了 12時00分
6. 水防に関する展示コーナー等
  - ・展示・体験コーナー(9時00分から12時00分)  
ダム、放水路事業等のパネル展示、降雨体験機
  - 10時30分 救急救命講習

## 平成23年度「斐伊川水防演習」の特徴について

### ○ 水防団員の技術の習得を重点にした実践的演習内容としています。

水防団技術向上のため「水防工法講習会」を実施します。水防を迅速かつ的確に実施し、その効果を十分発揮させるため、水防団を対象として、制限時間を設けた「改良積み土のう工法」を実演します。

その他、各班が実施する工法については、工程と作業内容を理解し、必要な労力の量や必要な資器材を把握して、完成まで通しで行う演習内容としています。工法に必要な資器材も予め必要量用意することなく、各班の判断で資材や道具の選定・調達を行います。工法の理解度が試されることです。

### ○ 「水防専門家」「防災エキスパート」が指導に加わり技術習得を支援します。

「水防専門家派遣制度」により1名の水防専門家が参加。また、河川に精通した「防災エキスパート」も6名配置、「出雲結い工」の指導者も含め8人の指導者がきめ細かく指導にあたります。

### ○ 斐伊川オリジナルの伝統工法「出雲結い工」を実演します。

「出雲結い工」は、天井川で砂河川である斐伊川の特性を巧に利用した破堤後の応急堤防締切工です。先人達が生み出した知恵と技術を受け継ぐため「出雲結い工」は毎年実施しています。

### ○ 工法のやり方や使用材料を時代に即した形で実演します。

「改良積み土のう工」は、土のうとブルーシートだけでできるよう工夫された工法です。従来の「積み土のう工」に比べて鉄筋や間詰め土が不要なため作業の省力化・迅速化が図れるほか、コンクリート護岸や舗装した場所など鉄杭を打ち込めないところでも有効です。

また、各工法に従来から使用してきた「わら縄」や「番線」などの資材は近年あまりなじみがなく取扱いに不慣れです。誰でも扱いやすく調達も容易なナイロンロープや竹の代わりとなる単管パイプなどの資材も応用します。

また、地元企業が開発した土のう製造器「ビー・ビー・ワーカー」も使用します。土のうづくりは大変重労働ですが、この器具を使用すると従来より少ない人員で数倍早く土のうを作ることができます。

### ○ 地元水防団と「災害対策協力会」が連携した作業を行います。

建設機械を保有する「斐伊川水系災害対策協力会」(災対協・地元有志の建設会社で組織)が、地域の水防団が行う水防活動を支援する場面を想定した演習を行います。

今回は、現場で漏水対策を実施する水防団に災対協が土のうを供給するなど「災害対策協力会と水防団が連携して作業する工法」を実演します。

○災害発生時の傷病者の応急対応として救急・救命講習を実施します。

災害が発生し、傷病者が出た場合、救急隊が現場に到着するまでの間、その現場に居合わせた市民により応急手当が速やかに実施されることによって、傷病者が救命される可能性が高くなります。傷病者に対して適切な応急手当がなされない場合、救命のチャンスを逸してしまうことも少なくありません。そのようなことが起きないように、応急手当に関する正しい知識と技術を身につけるための講習会です。

○衛生小型画像伝送装置（Ku-SAT）による水防演習の映像を送信します。

衛生小型画像伝送装置（Ku-SAT）は、通信用人工衛星を利用して映像・音声・電話、FAXなどの通信が可能な装置であり、小型であるため人力による持ち運びが可能です。通信手段のない災害現場にこのKu-SATを設置し、現場の状況を映像などにより、災害対策本部に送信して状況監視や復旧計画等に役立てています。

水防工法の状況をカメラで撮影し、このKu-SATを使用して、斐川町図書館に送信します。また、斐川町図書館に設置しているKu-SATから水防演習の見学者の様子を演習本部席に送信します。

○家庭にある身近な材料を使ってできる水防工法について講習します。

各家庭での浸水対策として『家庭でできる「簡易水防工法」コーナー』を設け、ゴミ袋や段ボール箱、ブルーシートなど身近にある材料でできる水防工法について講習します。

このコーナーは、一般見学者の皆様にも積極的にご参加いただき防災への備えとしていただきたく設けました。

また、今回は新たに、尾原ダム、志津見ダム、放水路事業などを紹介した広報コーナーや大雨を体験することができる降雨体験コーナーも設けています。

○災害現場で活躍する「排水ポンプ車」「照明車」の訓練をします。

近年、「排水ポンプ車」や「照明車」などの特殊作業機械の活躍ぶりが全国各地の災害現場において注目されています。

「排水ポンプ車」は、堤防の民地側に溜まった水（内水）による浸水被害を軽減するため強制的に河川に排水する機械で、出雲河川事務所では、これを2台保有しています。

また、夜間の水防活動を支援する照明車は、昨年3月に新たに1台導入し2台になりました。

さらに、今回は、雲南県土整備事務所が新たに購入した排水ポンプ車が、演習に参加します。

今回、排水ポンプ車の設営訓練と、照明車は今回配備したブームタイプのものを運転します。

# 平成23年度（第17回）斐伊川水防演習

## 実施要領

### 1. 目的

洪水による被害の発生を未然に防止し、又は、被害を最小限に食い止めるためには、関係機関が密接な連携のもと、迅速かつ的確な水防活動を行うことが必要である。

国土交通省・島根県・水防管理団体をはじめとする関係機関は、水防工法の訓練を行い技術の習得・錬磨を図るとともに、水防に携わる職員・団体の志気の高揚に資することを目的に、斐伊川水防演習を開催するものである。

### 2. 主催

国土交通省 出雲河川事務所  
島根県 雲南県土整備事務所  
" 出雲県土整備事務所  
出雲市  
雲南市  
斐川町

### 3. 協賛

斐伊川水系災害対策協力会  
(社)中国建設弘済会 島根支部

### 4. 参席者

島根県河川課長  
出雲警察署長  
出雲市消防本部 消防長  
雲南消防本部 消防長  
斐伊川水系災害対策協力会長  
(社)中国建設弘済会 島根支部長

### 5. 開催日時

平成23年6月4日（土） 9時00分～12時00分

### 6. 開催場所

簸川郡斐川町出西 斐伊川右岸高水敷（13k500付近）

### 7. 参加機関

出雲市水防団  
雲南市水防団  
斐川町水防団  
島根県 雲南県土整備事務所  
" 出雲県土整備事務所  
斐伊川水系災害対策協力会  
国土交通省 出雲河川事務所  
(社)中国建設弘済会 島根支部

## 8. 組織及び事務分掌

【演習本部】 演習全体の総括  
本部長：出雲河川事務所長  
副本部長：雲南県土整備事務所長  
〃：出雲県土整備事務所長  
〃：出雲市長  
〃：雲南市長  
〃：斐川町長  
本部付：出雲河川事務所 防災情報課長

【演習進行部】 演習の運営・広報  
部長：出雲河川事務所（調査）副所長  
部長：出雲河川事務所（ダム）副所長  
進行部付：出雲河川事務所 管理第一課長

【演習実施部】 演習の実施  
部長：出雲河川事務所（工事）副所長  
副本部長：雲南県土整備事務所 維持管理部長  
〃：出雲県土整備事務所 土木工務部長  
実施部付：出雲市水防団長  
雲南市水防団長  
斐川町水防団長

### 工法指導者

水防専門家（1名）  
防災エキスパート（6名）  
出雲結い工指導者（1名）

### 統括指揮者

斐川町水防団 副団長

第1班	斐川町水防班（出雲結い工）	30名
第2班	出雲市平田方面隊水防班（月の輪工）	20名
第3班	出雲市湖陵方面隊水防班（木流し・竹流し工）	20名
第4班	出雲市大社方面隊水防班（釜段工）	20名
第5班	出雲市平田方面隊水防班（シート張り工）	20名
第6班	雲南市大東方面隊水防班（木流し・竹流し工）	28名
第7班	雲南市吉田方面隊水防班（月の輪）	20名
第8班	雲南市掛合方面隊水防班（シート張り工）	20名
第9班	島根県雲南県土整備事務所水防班（積み土のう工）	21名
第10班	島根県雲南県土整備事務所水防班（排水ポンプ車）	7名
第11班	島根県出雲県土整備事務所水防班（改良積み土のう工）	22名
第12班	斐伊川水系災害対策協力会水防班（出雲結い工）	15名
第13班	斐伊川水系災害対策協力会水防班 （洗掘防止応急対策工・建設機械支援）	5名
第14班	国土交通省水防班（改良積み土のう工）	18名
第15班	国土交通省水防班（照明車、排水ポンプ車）	7名

## 9. 演習日程

8 : 3 0 ~	(準 備)	
9 : 0 0 ~	(開会式)	
	開会の辞	
	主催者挨拶	出雲河川事務所長 斐川町長
9 : 2 0 ~	(演 習)	
	第 5 班・第 8 班	シート張り工
	第 3 班・第 6 班	木流し工・竹流し工
	第 9 班	積土のう工
	第 11 班・第 14 班	改良積土のう工
	第 2 班・第 7 班	月の輪工
	第 4 班	釜段工
	第 1 班・12 班	出雲結工
	第 13 班	洗堀防止応急対策工・建設機械支援
	第 10 班	排水ポンプ車
	第 15 班	照明車・排水ポンプ車
1 1 : 5 0 ~	(閉会式)	
	挨拶	島根県河川課長
	閉会の辞	
	解 散	12:00

## 10. 参加人員

出雲市水防団	80名
雲南市水防団	69名
斐川町水防団	30名
斐伊川水系災害対策協力会	23名
島根県雲南県土整備事務所	28名
〃 出雲県土整備事務所	22名
国土交通省出雲河川事務所	25名
工法指導者	8名
役員他関係機関参加者	45名
計	330名

## 11. 演習の進行

別紙「平成23年度斐伊川水防演習日程」のとおり。

## 12. 演習会場の位置等

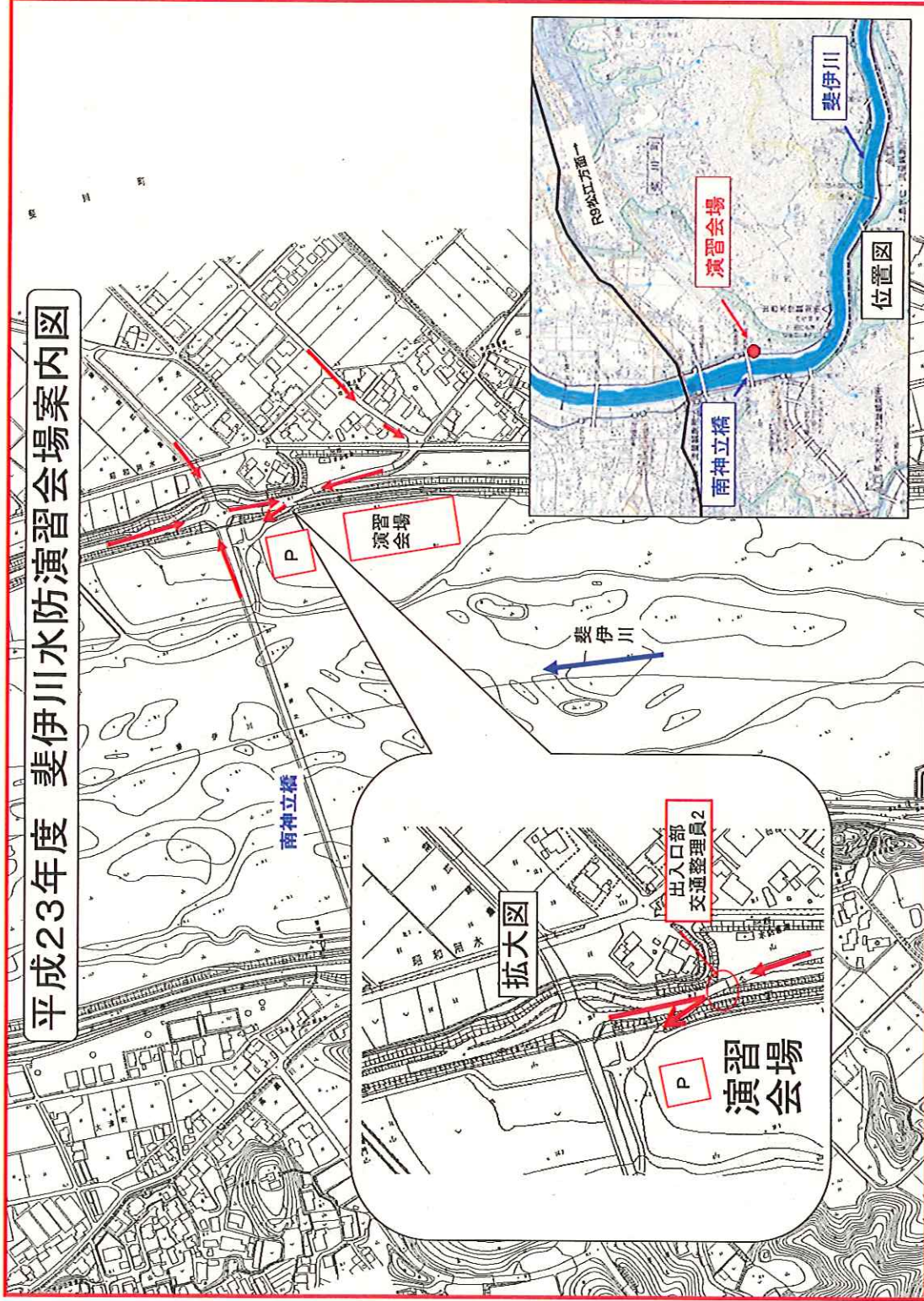
別紙「演習会場位置図」「演習会場配置図」のとおり。

H23 斐伊川水防演習日程

		平成23年6月4日												備考					
		7:00			8:00			9:00			10:00			11:00			12:00		
開始式	開会の辞																		
式	挨拶																		
	シフト張り工 (第5班・第8班)																		
工	木造し工・竹造し工 (第3班・第6班)																		
	積み土のう工 (第9班)																		
法	改良積み土のう工 (第11班・第4班)																		
	月の輪工 (第2班・第7班)																		
演	築段工 (第4班)																		
	出雲結い工 (第1班)																		
習	出雲結い工 (第13班)																		
	洗脚防止板急列演習 (第12班)																		
	脱段機操支援 (第12班)																		
	排水ポンプ車 (第10班)																		
	照明車・排水ポンプ車 (第15班)																		
	救命艇急演習会																		
工	立役																		
開始式	挨拶																		

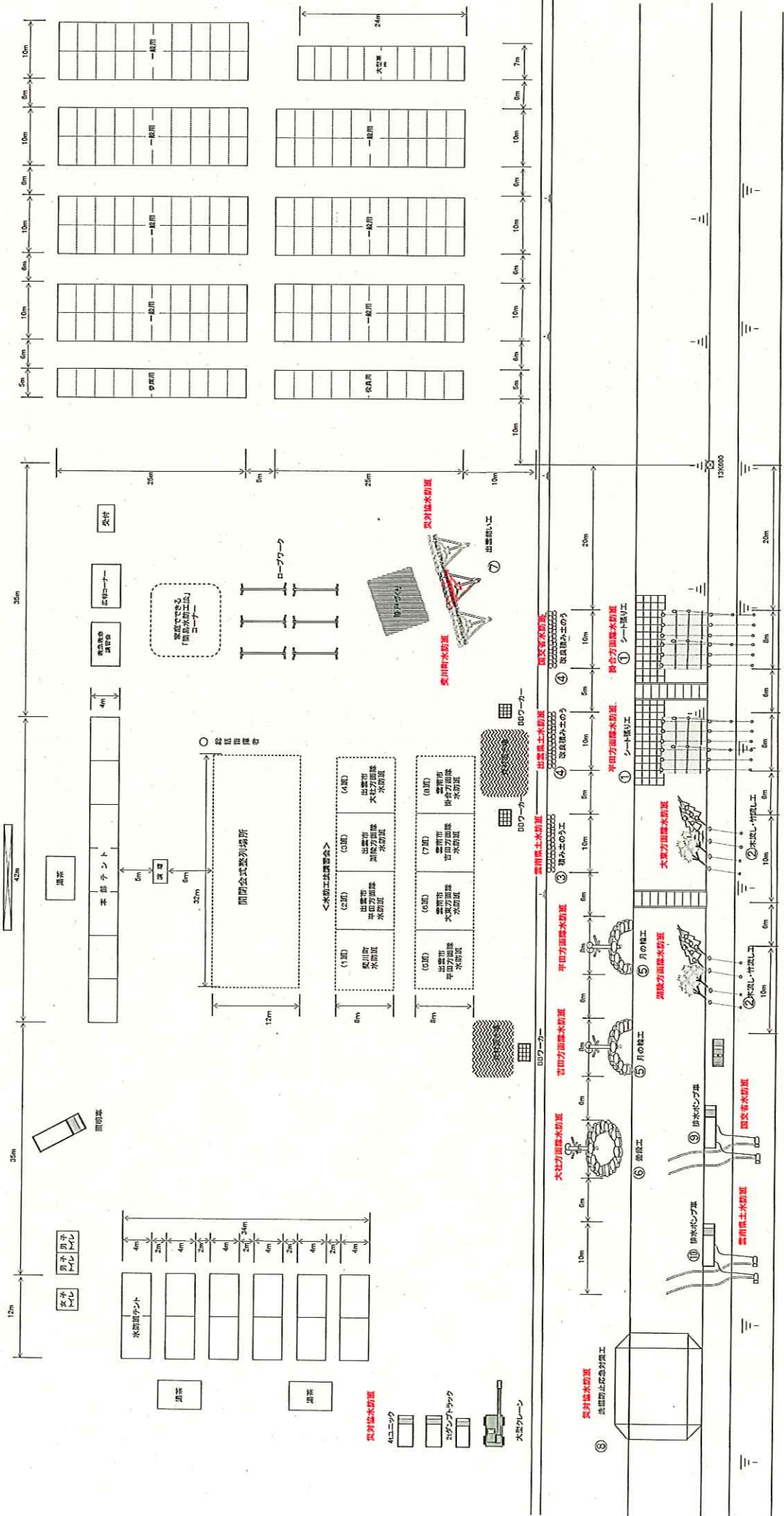
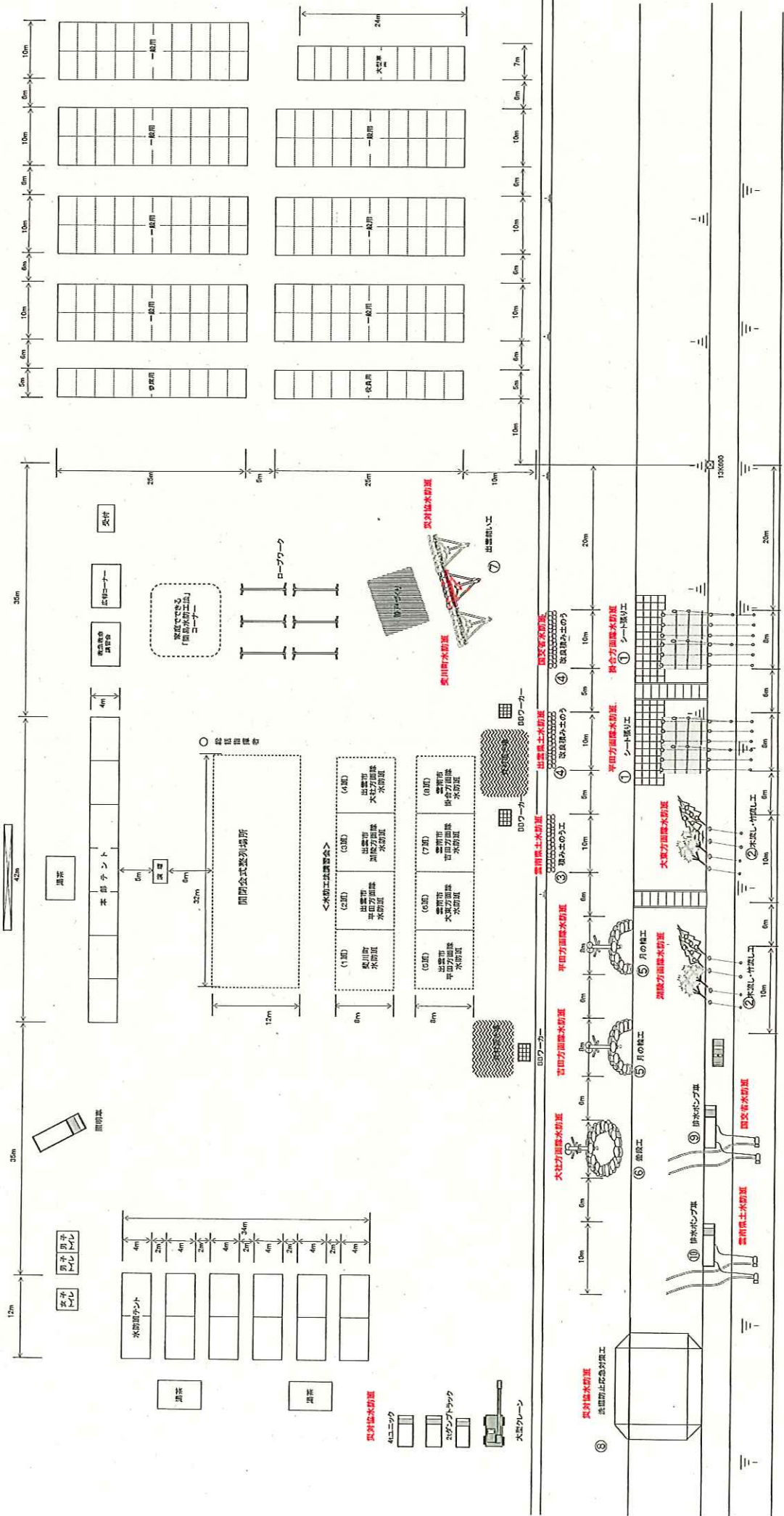
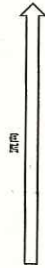


# 平成23年度 斐伊川水防演習会場案内図



- 1) 神立橋方面及びび広域農道線からは南神立橋東詰交差点から進入し坂路出入口部の交通整理人の指示に従ってご来場下さい。
- 2) 北側上流方面からは坂路入り部の交通整理人の指示に従って御来場下さい。

# 演習会場配置図





# 雨の季節を前に

平成23年度 (第17回)

みなさんの参加・見学を  
お待ちしております!

## 斐伊川で水防演習



**自助**

自分たちで自分たちの身を守る

**共助**

地域住民が共に助け合う

**水防**

**公助**

公共機関等が住民を助ける

近年、地球温暖化の影響などもあって記録的な集中豪雨が多発し、大規模な洪水被害が全国各地で起きています。斐伊川水系でも平成18年7月豪雨により、流域各地で大きな被害が発生したことは記憶に新しいところです。

国土交通省、島根県及び斐伊川沿川の出雲市、雲南市、斐川町では、こうした洪水が起きた時、災害を未然に防ぎ、また被害を最小限に食い止めるための「水防活動」に備え、水防技術の修練と志気高揚を図ることを目的に「斐伊川水防演習」を毎年行っています。

今年も水防専門家や防災エキスパートの指導のもと本番さながらの訓練を行い、万一の水害に備えます。

日時 : 平成23年6月4日(土)  
9:00~12:00

演習会場 : 簸川郡斐川町出西地先  
斐伊川河川敷 (南神立橋上流東側)

主催 : 国土交通省 : 出雲河川事務所  
島根県 : 雲南県土整備事務所  
出雲市、雲南市、斐川町

協賛 : 斐伊川水系災害対策協力会  
(社) 中国建設弘済会島根支部

演習  
内容

斐伊川の水防活動において必要となる代表的な水防工法を基礎から習得することを重点に訓練する他、地元建設業者で組織する「災害対策協力会」と水防団とが連携して作業する工法を実演します。

また、被災現場での活躍が注目されている「排水ポンプ車」「照明車」の設営演習も予定しています。



# 一般参加、見学コーナーも設けています！

## ■ 広報展示・体験コーナー(9:00~12:00)

- ・尾原ダム、志津見ダム、放水路事業等のパネル展示
- ・衛星画像伝送装置による水防工法実演ライブ映像配信(斐川町図書館と演習会場を結び送受信)
- ・降雨体験機

## ■ 救急救命講習会 10:30分~11:10分

- ・応急手当の重要性(講話)
  - ・心肺蘇生法
  - ・AED(自動体外式除細動機)の使用法等
- ※一般参加者大歓迎です。



<降雨体験機>

※近年頻繁に発生している集中豪雨等について、気象情報による時間雨量が、どの程度の雨量なのかを体験することができます。

■ 一般参加の方には、ロープワークや家庭で出来る簡易水防工法を指導いたします。覚えておいたら便利です！



## 家庭で出来る！簡易水防工法の例

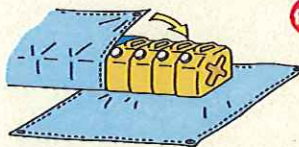
### 例1 ごみ袋を使った水防工法

ごみ袋(2重)に水を入れ、家の出入り口などにならべることにより、水の浸入を低減させます。



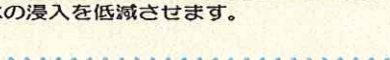
### 例2 ダンボール箱を使った水防工法

例1の応用工法です。ダンボール箱を併用するとごみ袋が水に流されにくくなります。



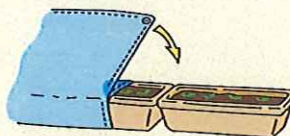
### 例3 ポリタンクを使った水防工法

水を入れたポリタンク等をシートで包み、水の浸入を低減させます。



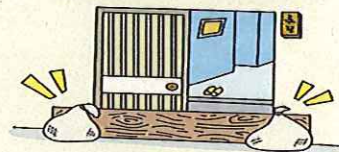
### 例4 プランターを使った水防工法

例3の応用工法です。土を入れたプランターを利用すれば、さらに水への抵抗力が増します。



### 例5 木の板を使った水防工法

木の板などを土のうで固定するだけでも、水の浸入を低減することができます。



### 例6 家庭の水防用に開発された製品の利用

家庭で多量に準備することが困難で重い土のうの代わりに、家庭用に開発された様々な製品を利用することも有効です。

